

 原因

はっきりとした原因は不明ですが、急性中耳炎の不完全な治療、ウイルス感染、アレルギーの関与、局所免疫防御の異常などが考えられます。

 症状

軽度の耳痛、難聴、耳鳴、耳がふさがった感じなどの症状があります。乳幼児はほとんどが無症状のことが多いです。学校検診で難聴を指摘されるまで気づかないことも多く、応答が悪いとか、テレビの音を大きくするという保護者からの訴えで発見されることもあります。

中耳の疾患では程度の差はありますが、伝音機構の障害を受けるため伝音難聴を伴います。

 治療と看護

抗アレルギー薬の投与が有効な場合もあります。当院では漢方薬の内服治療も行っています。(柴苓湯)

難治性のもは、鼓膜を切開して、ポリエチレン、テフロンなどのチューブを留置します。

幼少児の場合は、言語発達の遅延、永続性難聴や真珠腫性中耳炎に移行する可能性があります。放置せずきちんと治療することが大切です。